

大学

企画課管理用 研 一 A 一 2

推進主体	図書館
責任者	図書館長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
研	一	A	②大学院学生の研究環境の整備	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

本学大学院生の研究に不可欠なILLサービス(複写サービス:他大学からの論文複写取り寄せ、貸借サービス:他大学からの資料そのものの取り寄せ)を段階的に無料化することにより、研究に必要な経済的負担を軽減し、大学院生の研究環境を向上させる。ILLサービスは、本学で所蔵していない資料、本学で契約しているデータベースから入手ができない資料やインターネット上で公開されていない資料を入手するために多くの大学院生が利用している。しかし、利用にあたっては現在、複写料金や片道分の送料等の依頼先機関から請求された費用を利用者本人である大学院生が負担している制度となっている。その結果、利用回数の多い場合や送料が高額となる海外から資料を取り寄せる場合等、ILLサービスを積極的に利用する大学院生の費用負担が大きいことが課題である。この経済的負担を段階的に無料化していくことで、大学院生が必要な資料をより入手しやすい環境を整備し、その研究活動を支援したい。

なお、実施にあたってはサービス種別(論文複写取り寄せ、資料貸借)及び支払い区分(NII相殺システム※利用、銀行振り込み等NII相殺以外)並びに依頼先国(国内か海外か)の段階別に分け、段階的に拡大することでスムーズな移行と柔軟な制度設計の見直しを図る。

※NII相殺システム:NII(国立情報学研究所)によるILL文献複写等料金相殺サービスのこと。NIIのILLシステムを介した依頼・受付情報をもとにシステムで加盟館同士の料金が相殺される。四半期に一度、料金相殺の結果がNIIにより通知され、支払・請求される。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

ILLの段階的な無料化(大学図書館による費用負担)により大学院生の経済的負担を軽減する。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	制度設計 →	開始① (複写・NII 相殺システム)					
		開始② (貸借・NII 相殺システム)					
		開始③ (銀行振 込等)					
		開始④(海外)					

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	NII相殺システム利用支払いでの複写サービスについて無料化を開始する。(利用増大に伴うサービス低下を懸念し、貸借サービスは、令和6年度から開始)	計画通りに複写サービスの無料化を開始した。その結果、申込数が約1.3倍となっており、大学院生の経済的負担を軽減する目的に向けて今後も継続する。 ★進捗段階:「実施展開」
令和5年度 (2023年度)	引き続き、NII相殺システム利用支払いでの複写サービスの無料化を行う。 新館移転に伴うILLサービス全体の利用増加が見込まれるため、次年度の無料化拡大に向けて実績の検証と次年度計画の見直しを行う。	前年度に引き続き、NII相殺システム利用支払いでの複写サービスの無料化を実施した。新館移転に伴うILLサービス全体の利用増加を見込んでいたが、申込数は過年度と同程度だった。令和6年度は複写サービスの予算額を減額見直し(5倍→2.5倍見込み)とした。 また、令和6年度が開始初年度となる貸借サービスの予算額については、計画提出時と同額とした。 ★進捗段階:「実施展開」
令和6年度 (2024年度)	引き続き、NII相殺システム利用支払いでの複写サービスの無料化を行う。 また、令和6年度より新たにNII相殺システム利用支払いでの貸借サービスの無料化を開始する。これにより、NII相殺システム利用支払いでのILLサービス利用については、複写・貸借に関わらず無料化の対象とする。	(令和6年10月末現在) 取り組みについて、大学院生に浸透してきたと思われ利用の増加がみられた。 【複写】(前年度より継続) 申込数は前年度に比べ約1.3倍増となる見込み。 【貸借】(令和6年度より開始) 申込数は過年度と同程度にとどまる予想である。 【令和7年度予算要求】 複写・貸借共にサービスの予算額を見直し要求額を下方修正した。 ★進捗段階:「実施展開」
令和7年度 (2025年度)	令和7年度よりNII相殺システム利用支払いでの複写・貸借サービスの無料化に加え、新たに銀行振込等、料金相殺サービス対象外館への依頼分の無料化を開始する。これにより、国内のILLサービス利用については、複写・貸借、相殺・非相殺に関わらず無料化の対象とする。 また「学習院大学グランドデザイン2039」第1期が終了する令和10年度以降の経常的な運用に向け、サービス展開の範囲や対象者、大学図書館での負担額について具体的な計画を立てる。	(令和7年10月末現在) 取り組みについて、過年度から開始した貸借についても利用が促進し、複写・貸借共に利用件数が増加した。 【複写】(令和5年度より継続) 申込数は前年度に比べ約1.55倍増となる見込み。 【貸借】(令和6年度より継続) 申込数は前年度に比べ約1.8倍増となる見込み。 【令和8年度予算要求】 過年度同様の予算額で執行可能と試算し、複写・貸借共にサービスの予算額は据え置きとした。 なお、新中期計画(令和10年度以降)の予算措置は行われなことから、継続する際は大学図書館予算で実施する必要がある。研究分野により、図書館で十分に資料を揃えきれない点があることから、研究支援の一環として令和10年度以降も大学図書館予算にて当該サービスを継続する方向で検討中である。 今後の経常的な運用に向け、令和8年度より新規対象者となる国際社会科学研究所及び国際文化交流研究所の申し込み状況、執行金額を含め、令和8年度に動向を観察し、計画に盛り込むこととする。 ★進捗段階:「実施展開」
令和8年度 (2026年度)	計画当初は令和8年度より海外ILLを対象に含めるとしていたが、計画後に国際社会科学研究所および国際文化交流研究所が設置予定になり、対象となる院生数が増加することから、海外ILLの費用負担を見送ることとした。令和8年度は対象者に国際社会科学研究所と国際文化交流研究所の院生を追加し、対象サービスは令和7年度同様、支払方法に関わらず、国内機関所蔵資料の複写・貸借依頼分とする。 また「学習院大学グランドデザイン2039」第1期が終了する令和10年度以降の経常的な運用に向け、サービス展開の範囲や対象者、大学図書館での負担額について具体的な計画を立てる。	